

コストにも配慮した環境負荷低減、 地力向上の取組

調達

生産

流通

消費

取組概要

【目的】

環境負荷低減とコストの削減を両立し、持続可能な稲作経営を実現するため、有機物を活用した地力の向上を図る。

【内容】

- 1 水稻において、収穫後の稲わらの全量すきこみと堆肥散布による地力向上に取り組む。
- 2 効率的なほ場作業を行うため、「宮城県RTKシステム」による高精度の位置情報を活用する。
- 3 飼料自給の強化を図るため子実トウモロコシ栽培に取り組む。

取組の成果

- 1 化学肥料の削減につながっている。土づくりは長期的な継続が必要であるため、堆肥の施用面積は現状の20haから40haまでの拡大を目指し、今後も取組を進めていく。
- 2 トラクタの直進アシスト機能等の活用により、効率的な作業を実現するとともに、作業者の負担軽減が図られている。
- 3 使用資材の工夫により、多収ほ場では770kg/10a（平均600kg/10a）を実現した。今後も栽培方法の改良や栽培の拡大を続けていく。



代表取締役
高橋 文彦 氏



左：稲わらのすきこみ
※RTK基地局を活用し、効率的な作業を行っている。



右：ほ場への堆肥施用